

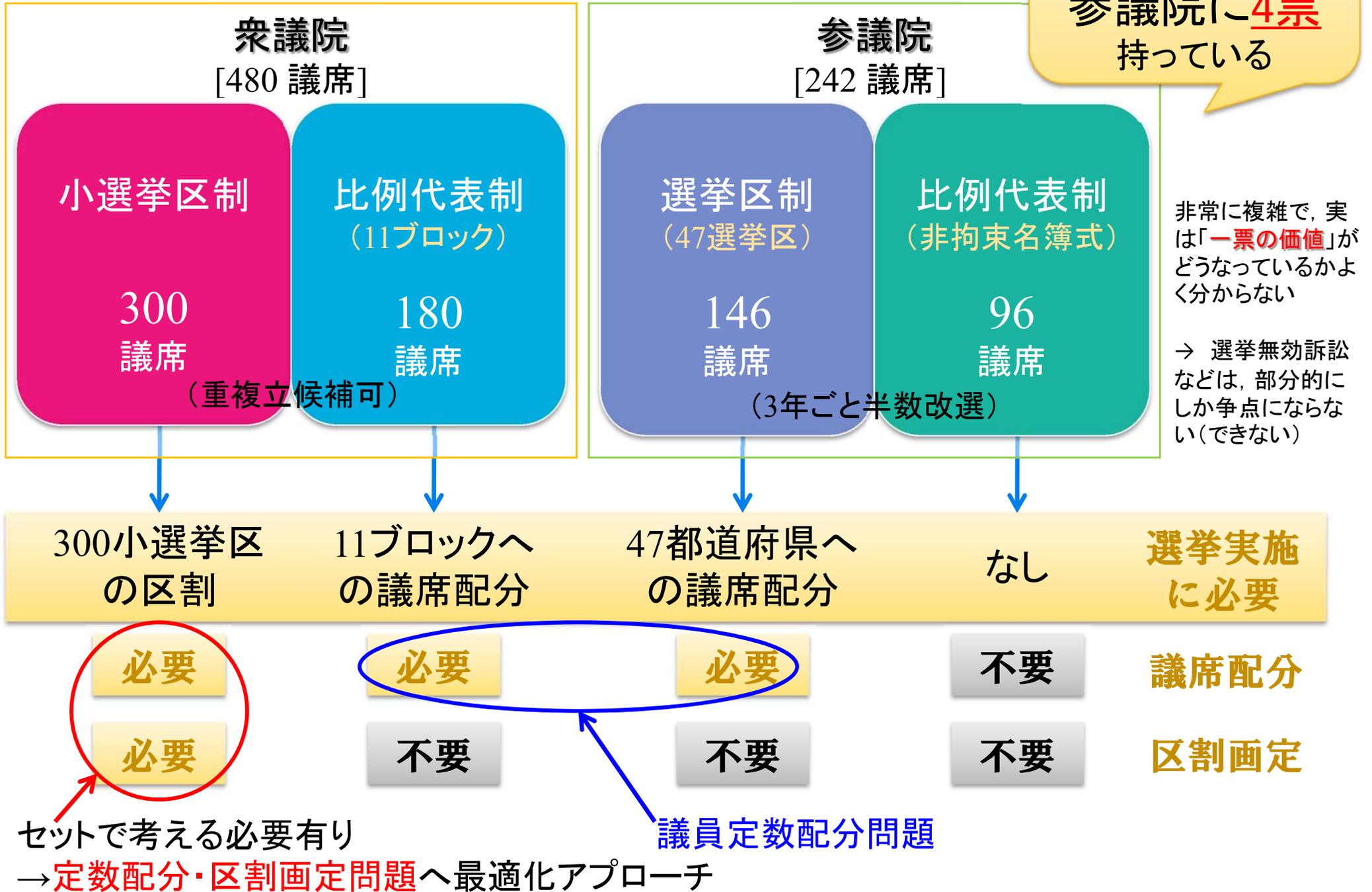
国政選挙における 一票の格差の現状と対策

文教大学 情報学部
堀田 敬介

2011年5月15日(日) 日本選挙学会 研究会

日本の国政選挙制度

有権者は
衆議院に**2票**
参議院に**4票**
持っている



衆議院小選挙区区割画定の現在の仕組み

各都道府県への

定数配分



各都道府県内での

区割画定

300議席

1 + 人口比例

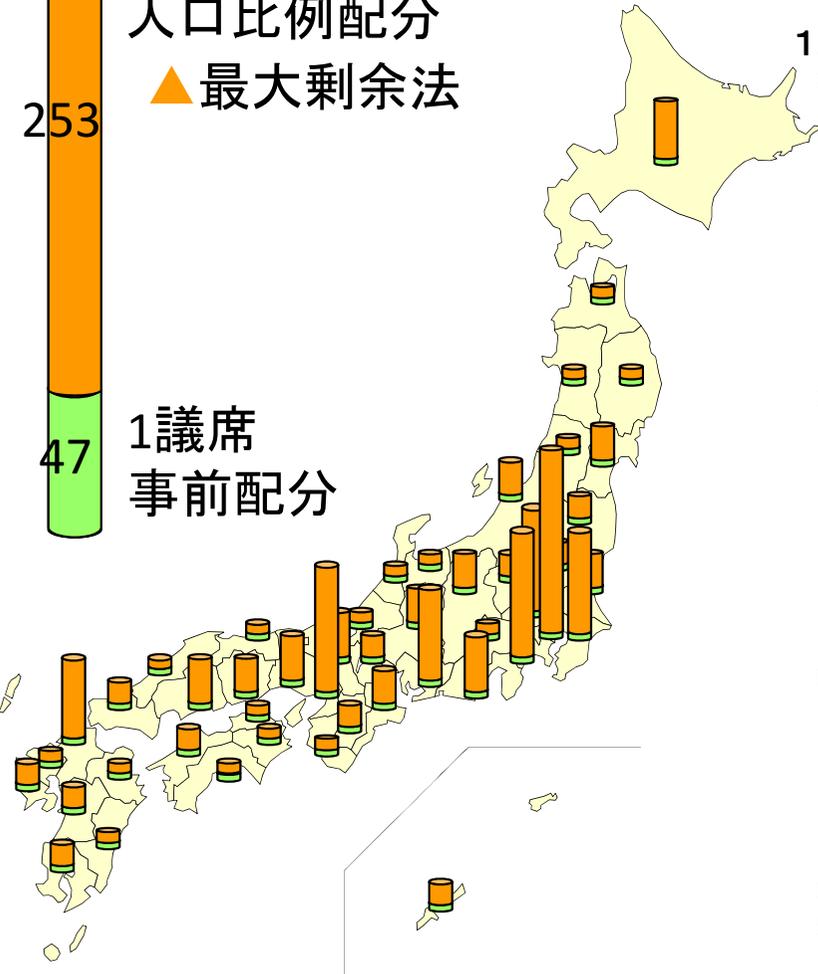
(衆議院議員選挙区画定審議会
設置法 第三条第2項)



人口比例配分

▲ 最大剰余法

1議席
事前配分



区割の作成方針

- 1. 区割り基準
- 2. 作業手順

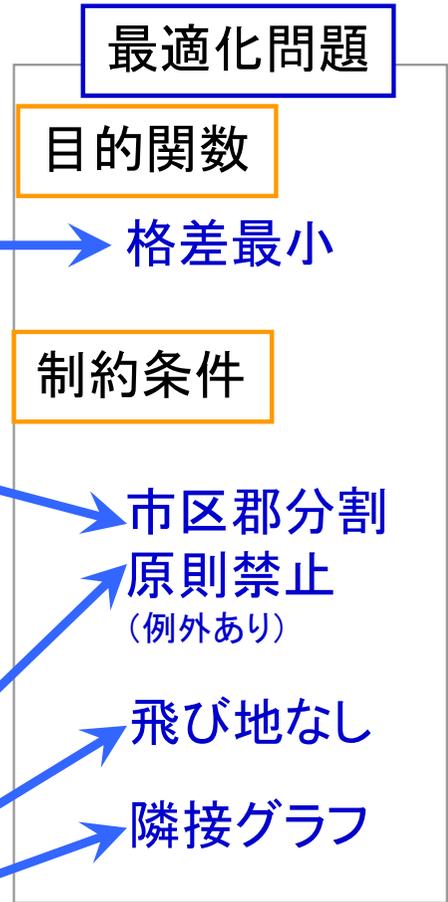
1. 区割り基準 『衆議院議員選挙区画定審議会』2001(H13)年9月
 - (1) 各選挙区の人口の均衡を図り、各選挙区の人口のうち、その最も多いものを最も少ないもので除して得た数が2以上とならないようにすることを基本とする。
 - (イ) 各選挙区の人口は、全国の議員1人当たり人口の2/3から4/3までとし、全国の議員1人当たり人口の4/3を上回る選挙区は設けないものとし、全国の議員1人当たり人口の2/3を下回る選挙区はできるだけ設けないものとする。
 - (ロ) 各選挙区の人口は、全国の議員1人当たり人口の2/3から4/3までとする。
 - (ハ) 都道府県の議員1人当たり人口が全国の議員1人当たり人口の2/3を下回る都道府県にあっては、各選挙区の人口をできるだけ均等にすることを要する。
 - (2) 市(指定都市にあっては行政区)区町村の区域は、分割しないことを原則とする。ただし、次の場合には、市区の区域は分割するものとする。
 - (イ) 市区の人口が全国の議員1人当たり人口の4/3を超える場合
 - (ロ) 市区の人口が当該都道府県の議員1人当たり人口の4/3を超える場合
 - (ハ) 当該都道府県の市界を市界とする選挙区としたときに全国の議員1人当たり人口の2/3を下回る選挙区が生じる場合(当該市の人口が当該都道府県の議員1人当たり人口を下回る場合を除く。)
 - (ニ) 選挙区が飛び地となることを避けるために必要な場合
 - (3) 郡(北海道にあっては支庁)の区域は、分割しないことを原則とする。ただし、次の場合には、郡の区域は分割することができるものとする。
 - (イ) (1)に沿った選挙区を設けるために必要な場合
 - (ロ) 選挙区が飛び地となることを避けるために必要な場合
 - (ハ) 郡の区域が他の郡により分断されている場合又は郡の区域に離島を含む場合
 - (4) 選挙区は、飛び地にしないものとする。
 - (5) 地勢、交通、歴史的沿革、人口動向その他の自然的社会的条件を総合的に考慮するものとする。

格差2倍未満 基本方針

市区分割 例外規定

郡分割 例外規定

最適区割を求める場合



一票の格差是正のための改善案

定数配分

区割画定

a. 「1+」の廃止	変更	—
b. 「定数配分法」の変更(現行:最大剰余法)	変更	—
c. 総議席数の変更(現行:300)	変更	変更
d. 「区割画定」を頑張る(最適に近づける)	—	変更
e. 「市区郡分割」の条件を変える	—	変更
f. 「市区郡を区割要素とする」ことをやめる	変更	変更
g. 「都道府県境」を緩和する	変更	変更
h. 「定数配分」→「区割画定」という順序を廃止	変更	変更
i. 「整数に丸める」ことをやめる	変更	変更

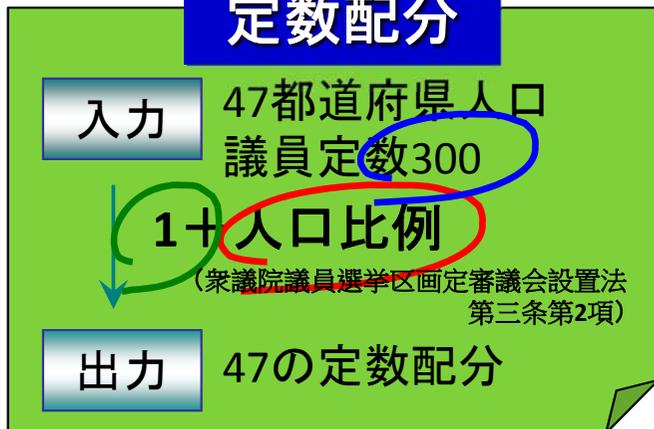
- どの方策にせよ a は実施すべき
- c は重要ではない(区割作成方針次第で対応可能という意味)
- f+h, i のいずれかを用いれば格差をなくせる(全2県間の格差1倍にできる)
- b+d+h を用いて格差を最小にする方法は、
格差最小配分法(根本・堀田(2005))である
- h の採用に踏み切れないのであれば、
b を用いて**定数配分を最小**とし, d+e で区割画定を**頑張る**しかない
- h 採用なら g は不要. h 不採用時は g はやってはいけない

最適区割による限界格差を用いた分析

2000人口
2001行政界

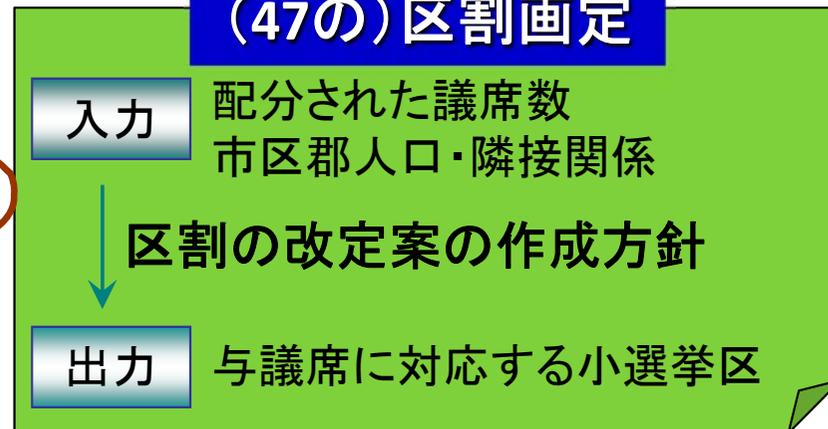
各都道府県への

定数配分



各都道府県内での

(47の)区割画定



1+最大剰余法	1.977
1+切り捨て法	1.750
1+切り上げ法	3.076
1+四捨五入法	2.290
1+幾何平均法	2.290
1+調和平均法	2.290
最大剰余法	2.032
切り捨て法	2.524
切り上げ法	1.750
四捨五入法	2.032
幾何平均法	1.777
調和平均法	1.777

1.977
1.750
3.076
2.290
2.290
2.290

議員定数
280~320

一票の重みの
格差
の縮小限界

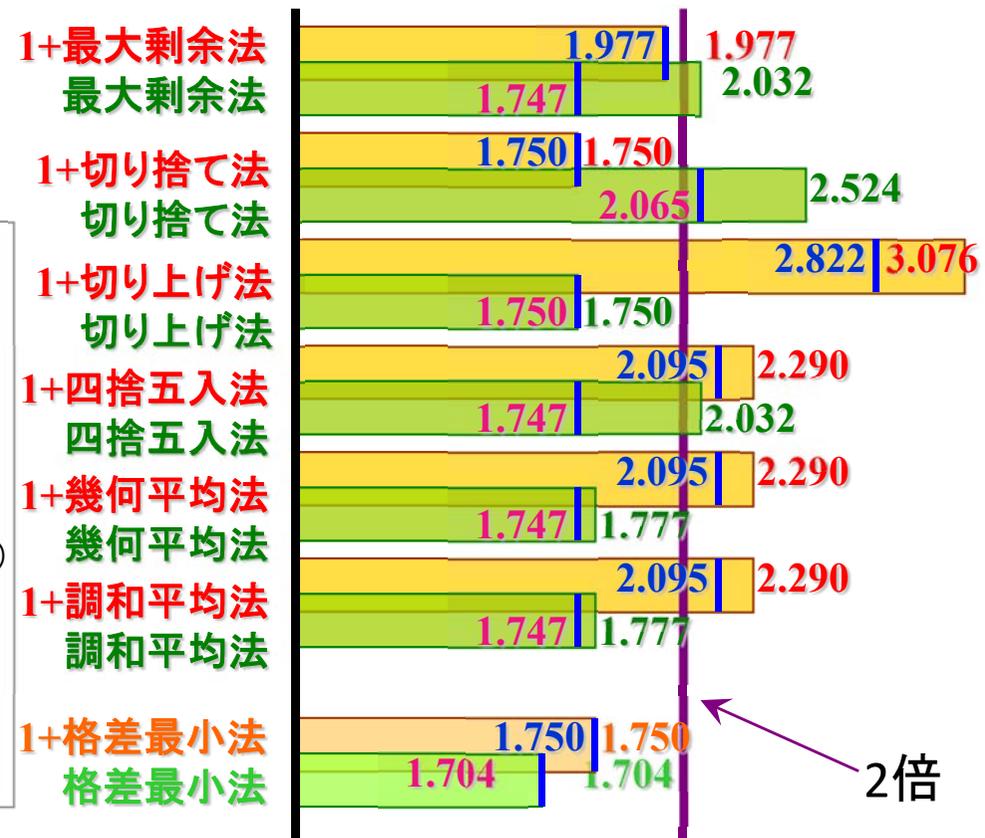
1+格差最小配分法

1.750 1.704

格差最小配分法

例) 東京都

- 1+24=25, 1+25=26 (by 1+24.039)
- 1+26=27 (by 1+切り捨て法)
- 1+22=23 (by 1+切り上げ法)
- 1+24=25 (by 1+四捨五入法)
- 1+24=25 (by 1+幾何平均法)
- 1+23=24 (by 1+調和平均法)



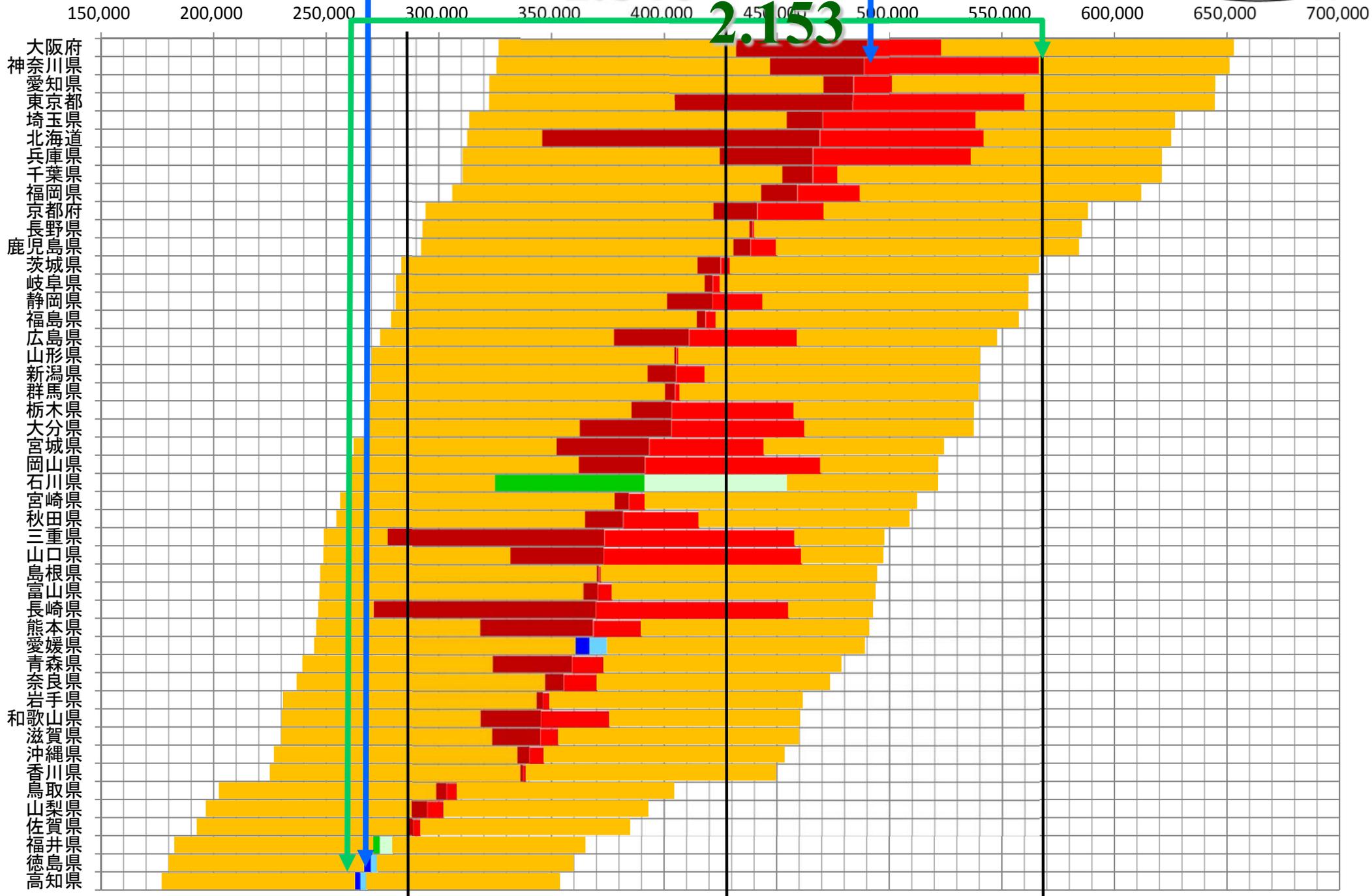
2倍

定数配分【1+最大剰余法】による格差

最適区割による限界格差

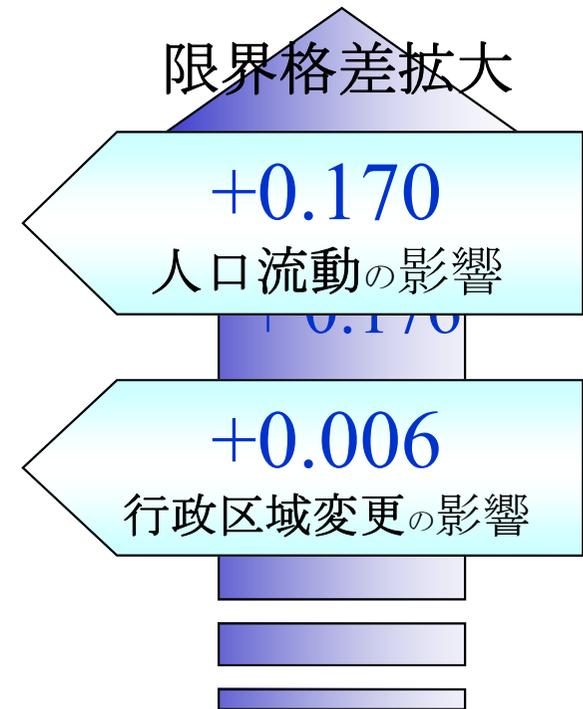
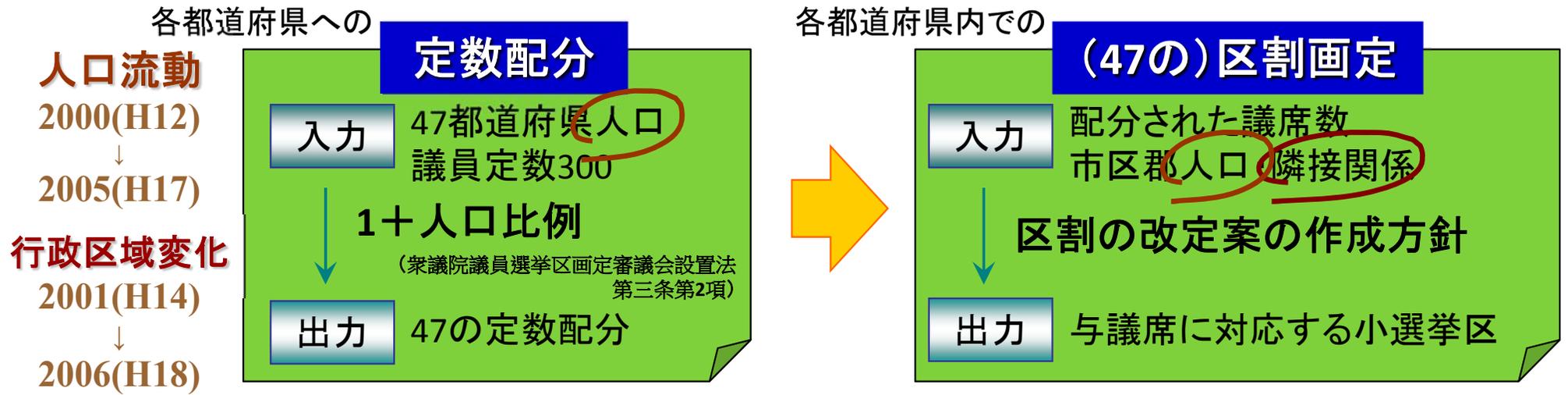
<根本・堀田(2006)>

2005人口
2006行政界



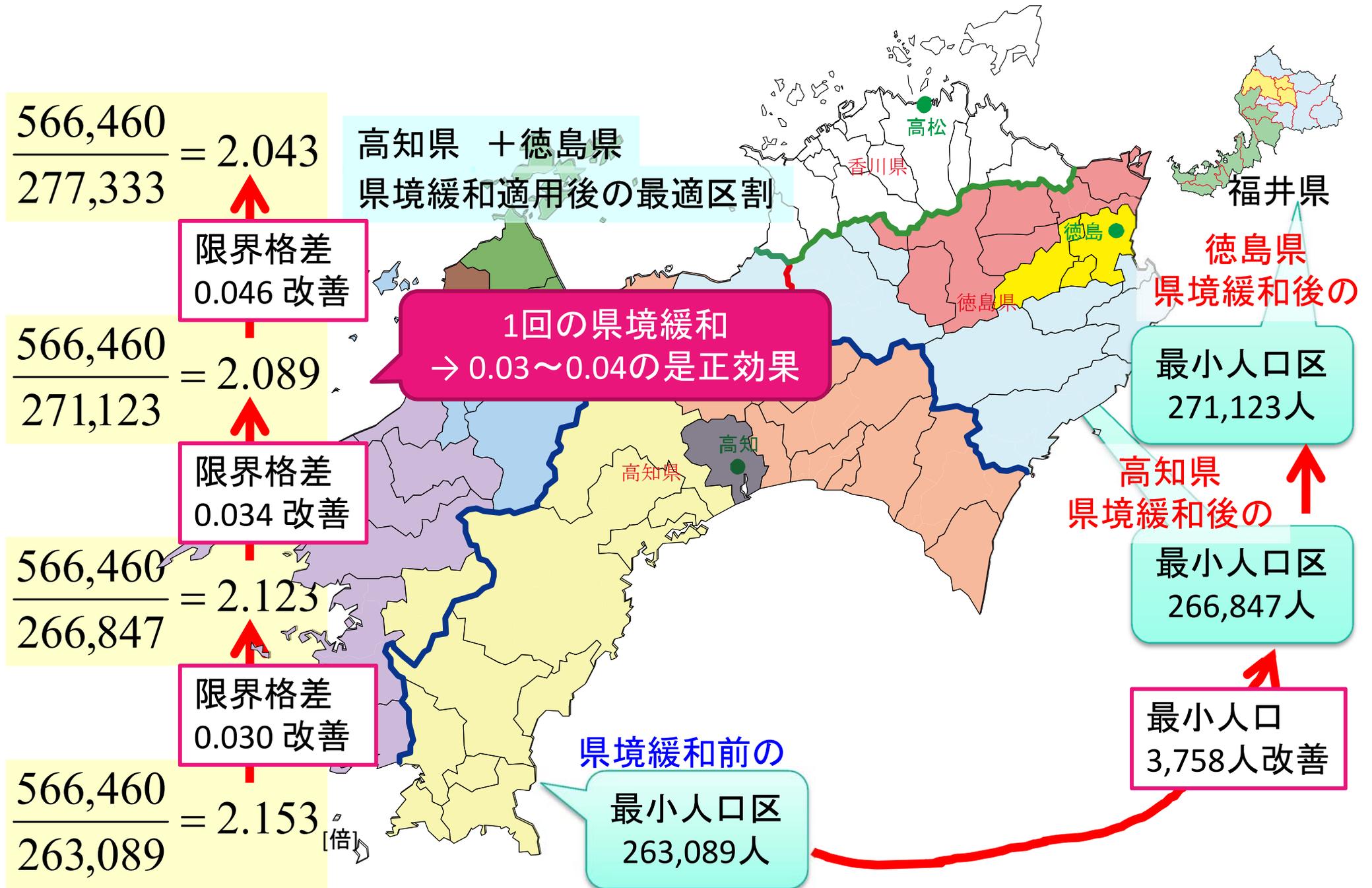
人口流動と行政区域変化の影響

2000~2005人口
2001~2006行政界



ただし、この結果は表面的！

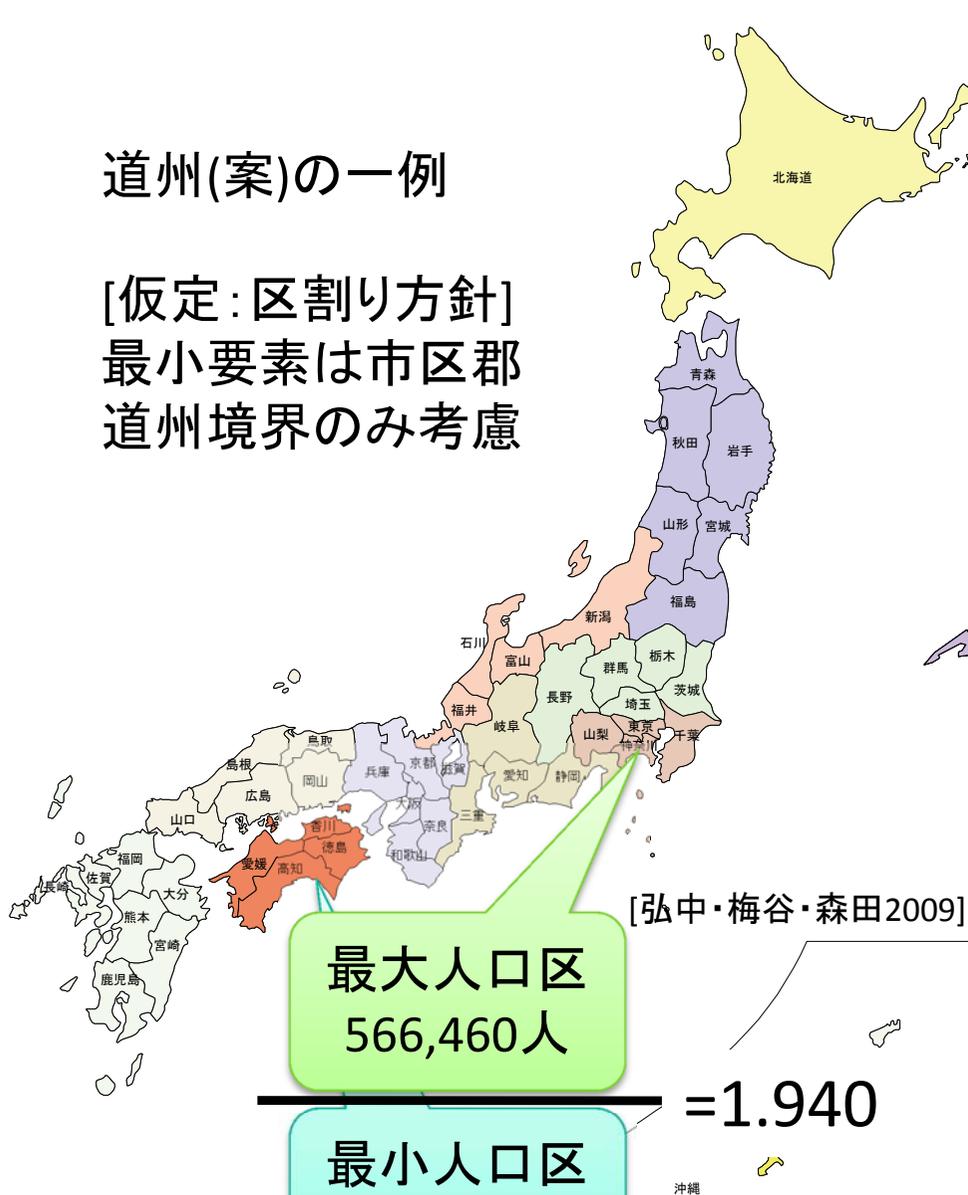
県境緩和の格差是正効果



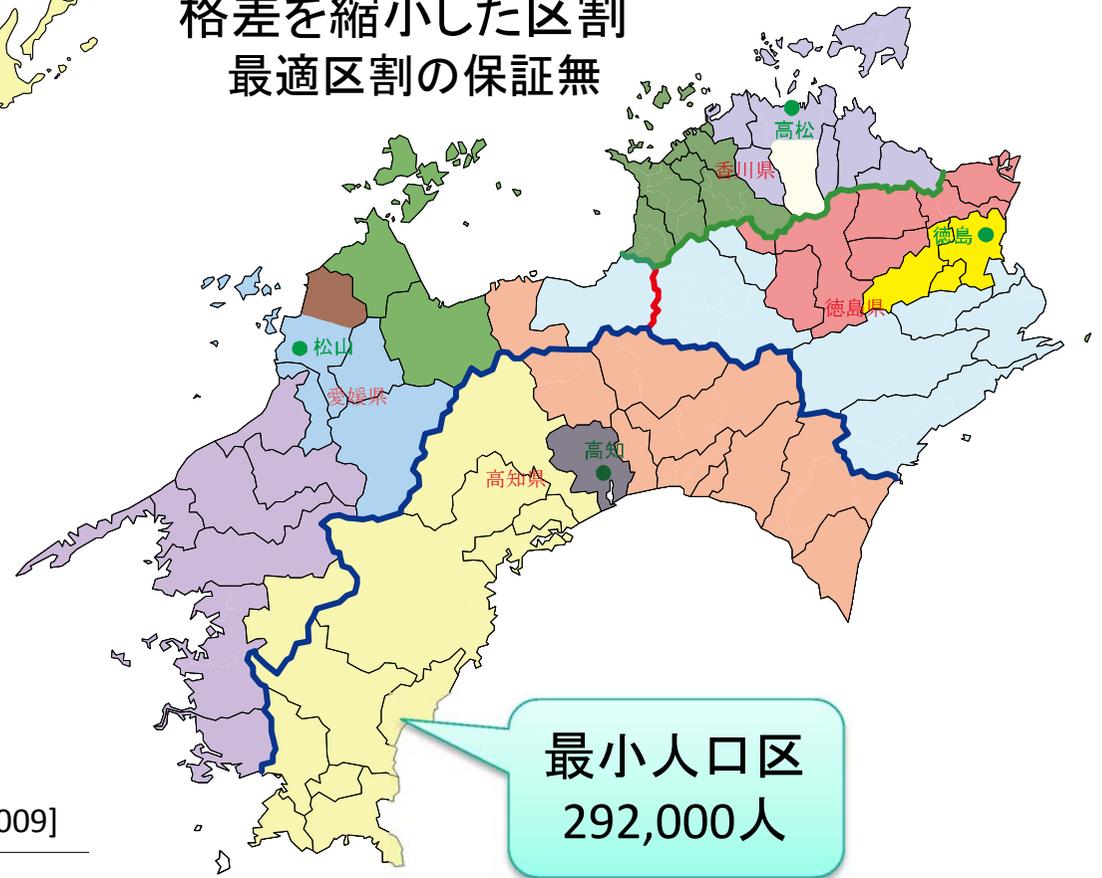
道州制と一票の重みの格差

道州(案)の一例

[仮定:区割り方針]
最小要素は市区郡
道州境界のみ考慮



格差を縮小した区割
最適区割の保証無



道州内での選挙区形成に緩和した場合の
限界格差の下限は1.940倍

定数配分法

$$\left\{ \begin{array}{l} m: \text{総議席数} \\ p_i: \text{都道府県人口} \\ \text{理想値} := \frac{mp_i}{\sum p_i} \end{array} \right.$$

- 剰余法 Remainder methods

- 最大剰余法 LRM, Hamilton, Vinton

理想値の切捨値を配分,
残りを少数以下の大きい順に配分

$$\left\{ \begin{array}{l} d: \text{除数} \\ r: \text{基準値} \\ a := \lfloor p_i / d \rfloor \end{array} \right.$$

- 除数法 Divisor methods

$p_i / d \geq r$ なら $a+1$, $p_i / d \leq r$ なら a を配分

- 切り捨て法, 最大除数法, Jefferson, d'Hont $r := a + 1$

- 調和平均法, Dean

$$r := \text{HarMean}(a, a+1)$$

- 幾何平均法, Hill, Huntington

$$r := \text{GeoMean}(a, a+1)$$

- 算術平均法, Webster, Sainte-Lague

$$r := \text{AriMean}(a, a+1)$$

- 切り上げ法, 最小除数法, Adams

$$r := a$$

定数配分法の比較

現行 衆議院小選挙区定数配分で利用
 現行 参議院比例区当選方法で利用

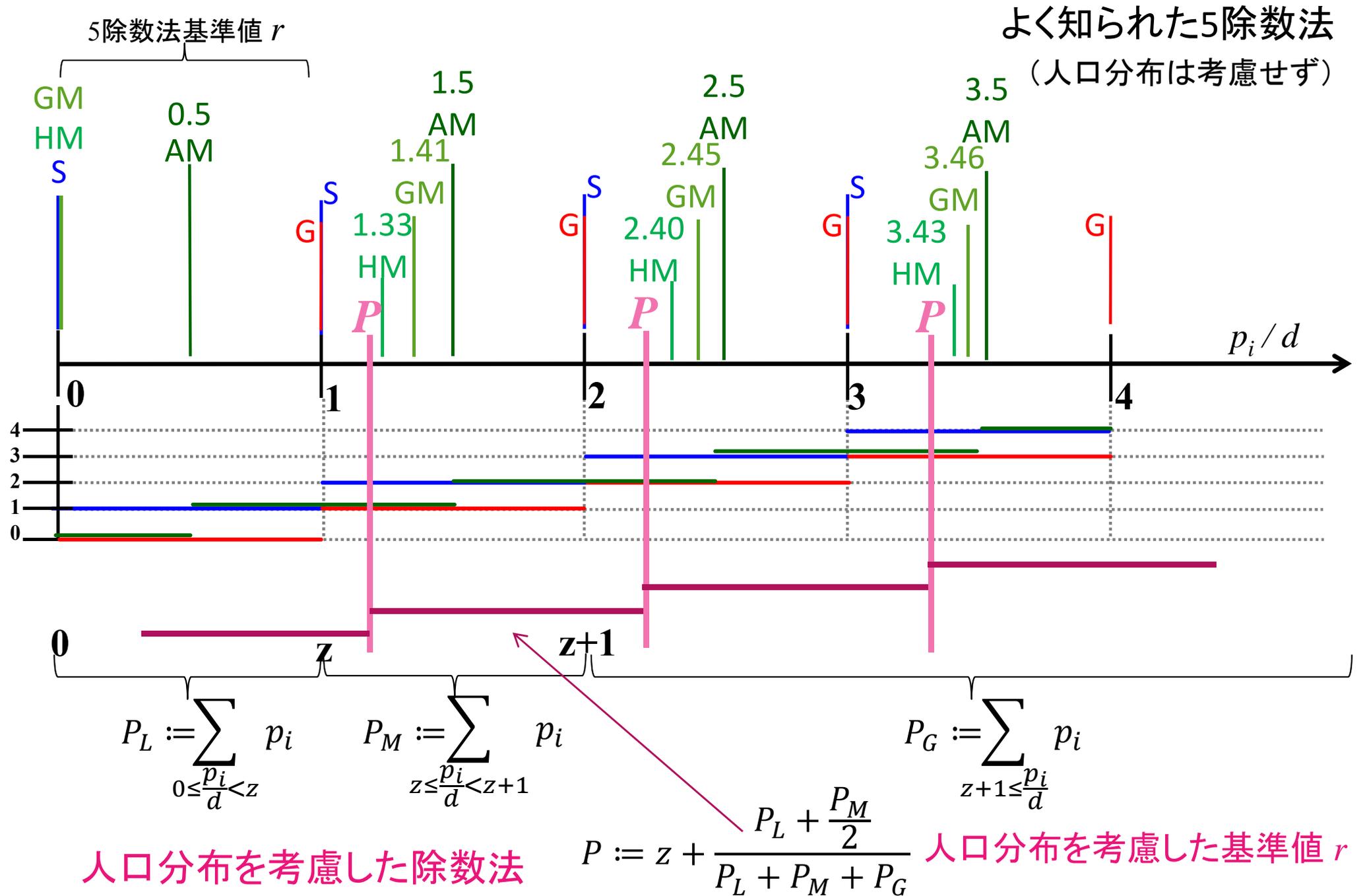
		剰余方式	除数方式				
満たしたい性質		Vinton Hamilton 最大剰余 LR	d'Hont Jefferson 切り捨て GD	Dean 調和平均 HMD	Hill 幾何平均 GMD	Sainte-Lague Webster 算術平均 AMD	Adams 切り上げ SD
割当分特性	上側	○	×	×	×	×	○
	下側	○	○	×	×	×	×
総定数単調性		×	○	○	○	○	○
人口単調性		×	○	○	○	○	○
標準性		○	×	×	×	○	×
整合性		×	×	×	×	○	×

○...満たす
 ×...必ずしも満たさない

定数配分 $a=(a_1, a_2, \dots, a_n)$ とする

- ※1. 割当分特性 = 配分 a が理想値の上下限内に収まる
- ※2. 総定数単調性 = 総定数の増減に対し、配分 a が単調 (= アラバマパラドクスが起こらない)
- ※3. 人口単調性 = 人口増減率にたいし、議席の増減が単調 (= 人口パラドクス起こらない)
- ※4. 標準性 = 任意の2県定数配分で、どちらも理想値に最も近い定数を受け取る
- ※5. 整合性 = 全体での議席配分と一部(2県)の再配分が等しい
 (ex. 全都道府県での千葉と鳥取の配分) (ex. 全体での千葉と鳥取の合計を2県に再配分)

定数配分法



割当分特性を
満たした上で
最適に注意

		1.600	1.596	1.643	1.997	1.643	1.643	1.702	1.583	1.619	2.684	1.949	1.583	1.885	1.986	2.120	2.684
		470,631	469,595	588,418	785,873	588,418	588,418	500,631	465,765	476,289	526,470	785,873	465,765	493,900	506,221	506,221	526,470
		294,209	294,209	358,177	393,457	358,177	358,177	294,209	294,209	294,209	196,139	403,235	294,209	261,958	254,865	238,785	196,139
		OptUL	P2	LRM	GD	AMD	GMD	HMD	SD	1+OptUL	1+P2	1+LRM	1+GD	1+AMD	1+GMD	1+HMD	1+SD
31	鳥取県	588,418	2	2	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	3
32	島根県	716,354	2	2	2	1	2	2	2	3	3	2	2	2	2	3	3
39	高知県	764,596	2	2	2	1	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3	3
36	徳島県	785,873	2	2	2	1	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3	3
18	福井県	806,470	2	2	2	2	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3	3
41	佐賀県	849,709	2	2	2	2	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3	3
19	山梨県	862,772	2	2	2	2	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3	3
37	香川県	995,779	3	3	2	2	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3	3
30	和歌山県	1,001,261	3	3	2	2	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3	3
5	秋田県	1,085,878	3	3	2	2	3	3	3	3	3	2	2	2	3	3	3
16	富山県	1,093,365	3	3	3	2	3	3	3	3	3	2	2	2	3	3	3
45	宮崎県	1,135,120	3	3	3	2	3	3	3	3	3	2	2	2	3	3	4
6	山形県	1,168,789	3	3	3	2	3	3	3	3	3	2	2	2	3	3	4
17	石川県	1,170,040	3	3	3	2	3	3	3	3	3	2	2	2	3	3	4
44	大分県	1,196,409	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	3	3	4
3	岩手県	1,330,530	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	3	3	4
2	青森県	1,373,164	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	3	3	4
47	沖縄県	1,392,503	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	3	3	4
29	奈良県	1,399,978	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	3	3	4
25	滋賀県	1,410,272	3	4	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	3	3	4
42	長崎県	1,426,594	4	4	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	3	3	4
38	愛媛県	1,430,957	4	4	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	3	3	4
35	山口県	1,451,372	4	4	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	3	3	4
46	鹿児島県	1,706,428	4	4	4	4	4	4	4	4	4	2	2	2	3	3	5
43	熊本県	1,817,410	4	4	4	4	4	4	4	4	4	2	2	2	3	3	5
24	三重県	1,854,742	4	4	4	4	4	4	4	4	4	2	2	2	3	3	5
33	岡山県	1,944,986	5	5	5	4	5	5	5	5	5	2	2	2	3	3	5
9	栃木県	2,007,014	5	5	5	5	5	5	5	5	5	2	2	2	3	3	5
10	群馬県	2,008,170	5	5	5	5	5	5	5	5	5	2	2	2	3	3	5
7	福島県	2,028,752	5	5	5	5	5	5	5	5	5	2	2	2	3	3	5
21	岐阜県	2,081,147	5	5	5	5	5	5	5	5	5	2	2	2	3	3	5
20	長野県	2,152,736	5	5	5	5	5	5	5	5	5	2	2	2	3	3	5
4	宮城県	2,347,975	5	5	5	5	5	5	5	5	5	2	2	2	3	3	6
15	新潟県	2,374,922	6	6	6	6	6	6	6	6	6	2	2	2	3	3	6
26	京都府	2,636,704	6	6	6	6	6	6	6	6	6	2	2	2	3	3	6
34	広島県	2,860,769	7	7	7	7	7	7	7	7	7	2	2	2	3	3	7
8	茨城県	2,968,865	7	7	7	7	7	7	7	7	7	2	2	2	3	3	7
22	静岡県	3,765,044	8	9	9	9	9	9	9	9	9	2	2	2	3	3	8
40	福岡県	5,072,804	11	11	12	12	12	12	12	11	11	11	11	11	11	11	10
1	北海道	5,507,456	12	12	13	13	13	13	13	12	12	12	12	12	12	12	11
28	兵庫県	5,589,177	13	13	13	14	13	13	13	12	12	12	12	12	12	12	11
12	千葉県	6,217,119	14	14	15	15	14	14	14	14	14	13	13	13	13	13	13
11	埼玉県	7,194,957	16	16	17	18	17	17	17	16	16	15	15	15	15	15	14
23	愛知県	7,408,499	17	17	17	18	17	17	17	16	16	15	15	15	15	15	15
27	大阪府	8,862,896	20	20	21	22	21	21	21	20	19	18	18	18	18	18	17
14	神奈川県	9,049,500	21	20	21	23	21	21	21	20	19	18	18	18	18	18	18
13	東京都	13,161,751	30	29	31	33	31	31	30	29	28	27	27	26	26	26	25

「SD」=小県有利
「1+」=小県有利
→互いの長所を高
め合う(=歪ませて
×歪ませて倍加)
→格差拡大

もともと平均的で良
い性質を持つ除数
法は「1+」でゆがま
せると、そのままゆ
がむので、格差拡
大する

「GD」=大県有利
「1+」=小県有利
→互いの長所を打
ち消し合う(=歪ま
せて×歪ませて打
ち消し)
→格差縮小

現行のままなら
この格差
(=1.949倍)

全国人口	128,056,026
議席数	300
×4/3	569,137
1選挙区平均	426,853.4
×2/3	284,569

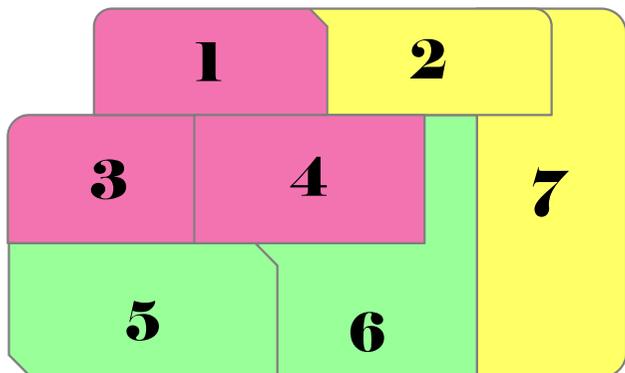
現選挙区からの乖離最小最適選挙区

- 2つの選挙区画定の乖離度を測る

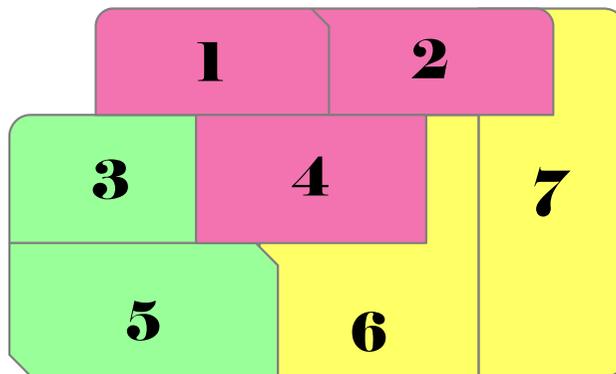
属性が異なると使えない

類似度分析
ex) クラスタ分析
2種類の距離
ex) Earth Mover's Dist.

画定選挙区A



画定選挙区B



	画定選挙区A	画定選挙区B	共通
市区郡1を含む選挙区	{1, 3, 4}	{1, 2, 4}	1, 4
市区郡2を含む選挙区	{2, 7}	{1, 2, 4}	2
市区郡3を含む選挙区	{1, 3, 4}	{3, 5}	3
市区郡4を含む選挙区	{1, 3, 4}	{1, 2, 4}	1, 4
市区郡5を含む選挙区	{5, 6}	{3, 5}	5
市区郡6を含む選挙区	{5, 6}	{6, 7}	6
市区郡7を含む選挙区	{2, 7}	{6, 7}	7

市区郡1に関する乖離度

$$\frac{1}{2} \left(\frac{3-2}{3} + \frac{3-2}{3} \right) = \frac{1}{3}$$

$$\frac{1}{1} \left(\frac{2-1}{2} + \frac{3-2}{3} \right) = \frac{7}{6}$$

$$\frac{1}{1} \left(\frac{3-1}{3} + \frac{2-1}{2} \right) = \frac{7}{6}$$

画定選挙区A,Bの乖離度

$$= \text{全市区郡の乖離度計} = \frac{20}{3}$$

【利点】

- 計算が簡単
- 異なる選挙区数でも計算可

注) 市区郡を対等に扱いたいため、人口案分はしない

現選挙区からの乖離最小最適選挙区

- ex) 奈良県 (3選挙区:定数配分はP法など), 現行4選挙区

最適区割	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
最大選挙区	469,928	469,014	469,774	469,774	471,882	469,928	469,928	470,621	473,995	471,569
最小選挙区	465,016	463,080	462,942	461,523	463,080	461,036	460,276	459,429	462,413	459,429
格差(差)	4,912	5,934	6,832	8,251	8,802	8,892	9,652	11,192	11,582	12,140
格差(比)	1.011	1.013	1.015	1.018	1.019	1.019	1.021	1.024	1.025	1.026
乖離度	11.00001	11	9	9	11.00001	11.00001	11	9	10.99999	7

最適区割	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
最大選挙区	473,644	472,678	473,287	472,082	473,644	472,842	473,995	473,995	473,995	473,995
最小選挙区	461,318	459,429	459,429	458,122	459,429	458,122	459,244	458,995	458,721	458,122
格差(差)	12,326	13,249	13,858	13,960	14,215	14,720	14,751	15,000	15,274	15,873
格差(比)	1.027	1.029	1.030	1.030	1.031	1.032	1.032	1.033	1.033	1.035
乖離度	9	9	7	9	7	9	9	11	8.99999	7

最適区割	1	2	3	4	5
最大選挙区	518,006	479,881	471,569	469,774	469,014
最小選挙区	366,528	459,429	459,429	462,942	463,080
格差(差)	151,478	20,452	12,140	6,832	5,934
格差(比)	1.413	1.045	1.026	1.015	1.013
乖離度	3	5	7	9	11

格差最小の最適解 (Best20)

乖離度最小の最適解 (Best5)

現選挙区からの乖離最小最適選挙区

- ex) 奈良県 (3選挙区:定数配分はP法など), 現行4選挙区

	現選挙区				格差最適選挙区			乖離度最小選挙区			乖離度7未満 格差最適選挙区			乖離度9未満 格差最適選挙区		
	1	2	3	4	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
1 奈良市	366528				366528			366528			366528			366528		
2 大和高田市			68458			68458			68458			68458			68458	
3 大和郡山市		88792				88792				88792			88792			
4 天理市		69125				69125				69125			69125			
5 橿原市				125573		125573				125573					125573	
6 桜井市				60146	60146					60146					60146	
7 五條市				34449			34449		34449				34449		34449	
8 御所市			30293				30293		30293				30293		30293	
9 生駒市		117887					117887			117887			117887			117887
10 香芝市			75214				75214			75214					75214	
11 葛城市			35856				35856			35856					35856	
12 宇陀市				34233	34233					34233					34233	
13 山辺郡		4109			4109					4109					4109	
14 生駒郡		78810					78810			78810					78810	
15 磯城郡			48182				48182			48182					48182	
16 宇陀郡				3998			3998			3998					3998	
17 高市郡				13521			13521			13521					13521	
18 北葛城郡			97419				97419			97419					97419	
19 吉野郡				47385			47385			47385					47385	
	366,528	358,723	355,422	319,305	465,016	465,034	469,928	366,528	515,444	518,006	459,429	479,881	460,668	459,429	468,980	471,569
	366,528	319,305			469,928	465,016	518,006	366,528			479,881	459,429		471,569	459,429	
	1.1479				1.0106		1.4133	1.0445			1.0264					
					格差		格差	格差			格差				格差	
						11.00001	3	5			7					
						乖離度	乖離度	乖離度			乖離度				乖離度	

注) 奈良市の旧都祁村域は第2選挙区
なので、第1・第2選挙区は人数が若干違う

参考：アメリカの場合

日本に比べて非常にシンプル
「一票の格差」は下院のみで考慮

• アメリカの議会選挙

Capitol Hill in USA



House of Representatives
[435 members]
Single-seat constituencies election

任期2年



議席配分

435議席を50州に
幾何平均法(Hill法)で配分
(ただし, 0議席となる州は出さない)

区割画定

州毎に, **ほぼ1倍**になるよう区割
(ただし, 区割構成要素はなく, ストリートで自由に区切ってよい)

i.e., 議席配分の格差がそのまま全国一票の格差になる

Senate
[100 members]
Two Senators are chosen from each state.

任期6年
2年毎に1/3改選



50州へ2議席ずつ配分
(人口比例ではない
=一票の格差は気にしない)

参考：アメリカの場合

- 議席配分：幾何平均法 (Hill)

— 一票の格差

(議席配分結果が
そのまま格差に)

ratio	1.827	1.851
max	902,195	974,989
min	493,782	526,605

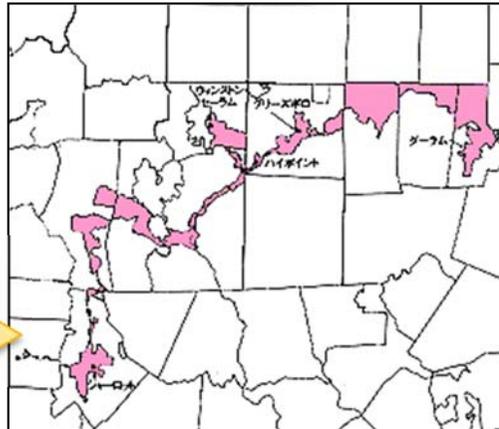
2000年 2009年
国勢調査人口 人口予測値



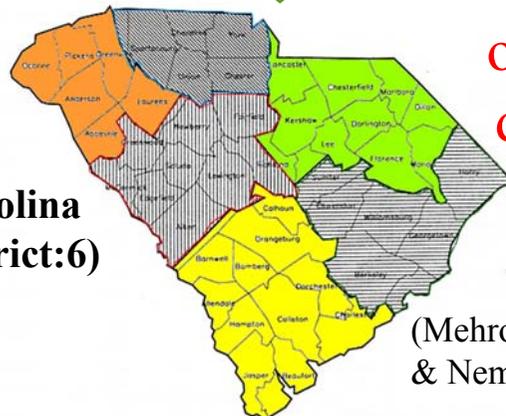
- 区割画定

ex) North Carolina
The 12th district
gerrymander?

区割構成要素がないので
やりたい放題!?



コンパクトな(丸っこい)選挙区を目指そう



optimal
district

ex) South Carolina
(city:46,district:6)

(Mehrotra, Johnson
& Nemhauser 1998)

No	州名	Gen2000	議席	1議員	Est2009	議席	1議員
6	California	33,871,648	53	639,088	36,961,664	53	697,390
48	Texas	20,851,820	32	651,619	24,782,302	35	708,066
36	New York	18,976,457	29	654,361	19,541,453	28	697,909
12	Florida	15,982,378	25	639,295	18,537,969	26	712,999
17	Illinois	12,419,293	19	653,647	12,910,409	18	717,245
42	Pennsylvania	12,281,054	19	646,371	12,604,767	18	700,265
39	Ohio	11,353,140	18	630,730	11,542,645	16	721,415
26	Michigan	9,938,444	15	662,563	9,969,727	14	712,123
34	New Jersey	8,414,350	13	647,258	8,707,739	12	725,645
13	Georgia	8,186,453	13	629,727	9,829,211	14	702,087
37	North Carolina	8,049,313	13	619,178	9,380,884	13	721,606
51	Virginia	7,078,515	11	643,501	7,882,590	11	716,599
25	Massachusetts	6,349,097	10	634,910	6,593,587	9	732,621
18	Indiana	6,080,485	9	675,609	6,423,113	9	713,679
53	Washington	5,894,121	9	654,902	6,664,195	10	666,420
47	Tennessee	5,689,283	9	632,143	6,296,254	9	699,584
29	Missouri	5,595,211	9	621,690	5,987,580	9	665,287
55	Wisconsin	5,363,675	8	670,459	5,654,774	8	706,847
24	Maryland	5,296,486	8	662,061	5,699,478	8	712,435
4	Arizona	5,130,632	8	641,329	6,595,778	9	732,864
27	Minnesota	4,919,479	8	614,935	5,266,214	8	658,277
22	Louisiana	4,468,976	7	638,425	4,492,076	6	748,679
1	Alabama	4,447,100	7	635,300	4,708,708	7	672,673
8	Colorado	4,301,261	7	614,466	5,024,748	7	717,821
21	Kentucky	4,041,769	6	673,628	4,314,113	6	719,019
45	South Carolina	4,012,012	6	668,669	4,561,242	7	651,606
40	Oklahoma	3,450,654	5	690,131	3,687,050	5	737,410
41	Oregon	3,421,399	5	684,280	3,825,657	5	765,131
9	Connecticut	3,405,565	5	681,113	3,518,288	5	703,658
19	Iowa	2,926,324	5	585,265	3,007,856	4	751,964
28	Mississippi	2,844,658	4	711,165	2,951,996	4	737,999
20	Kansas	2,688,418	4	672,105	2,818,747	4	704,687
5	Arkansas	2,673,400	4	668,350	2,889,450	4	722,363
49	Utah	2,233,169	3	744,390	2,784,572	4	696,143
32	Nevada	1,998,257	3	666,086	2,643,085	4	660,771
35	New Mexico	1,819,046	3	606,349	2,009,671	3	669,890
54	West Virginia	1,808,344	3	602,781	1,819,777	3	606,592
31	Nebraska	1,711,263	3	570,421	1,796,619	3	598,873
16	Idaho	1,293,953	2	646,977	1,545,801	2	772,901
23	Maine	1,274,923	2	637,462	1,318,301	2	659,151
33	New Hampshire	1,235,786	2	617,893	1,324,575	2	662,288
15	Hawaii	1,211,537	2	605,769	1,295,178	2	647,589
44	Rhode Island	1,048,319	2	524,160	1,053,209	2	526,605
30	Montana	902,195	1	902,195	974,989	1	974,989
10	Delaware	783,600	1	783,600	885,122	1	885,122
46	South Dakota	754,844	1	754,844	812,383	1	812,383
38	North Dakota	642,200	1	642,200	646,844	1	646,844
2	Alaska	626,932	1	626,932	698,473	1	698,473
50	Vermont	608,827	1	608,827	621,760	1	621,760
56	Wyoming	493,782	1	493,782	544,270	1	544,270
11	Washington D.C.	572,059	0		599,657	0	

まとめ

- 「一人一票の原則」を守れば「法の下で平等」なのか？

最高裁による「選挙権の平等と選挙制度について」の見解(S60.7)【S58.12衆院選無効請求事件】で「憲法14条1項の規定は、選挙権の内容の平等、いかえれば議員の選出について各選挙人の投票が持つ影響力の平等、すなわち投票価値の平等を要求していると解される。しかし、投票価値の平等は選挙制度の仕組みを決定する唯一・絶対の基準となるものではなく、国会が正当に考慮することのできるほかの政策的目的や理由との関連において調和的に実現されるべきものである。したがって、国会の決定した選挙制度の下で投票価値の不平等が存在する場合には、憲法上の投票価値の平等の要求と国会の政策的目的や理由とを照らしながら、同不平等が国会の裁量権の行使として合理性を是認できる範囲にとどまるものかどうかについて、検討を加えなければならない。そして、同不平等が国会の合理的最良の限界を超えていると推定されれば、これを正当化すべき特別の理由が示されない限り、憲法違反と判断されざるを得ないのである。(以下略)」

注) 静岡県以外は300万人未満

人口推移		1995	2000	2005	2010	増減
地方	人口400万人未満	61,300,453	61,408,367	60,946,790	59,991,867	↑ ↓ ↓
都市	人口500万人以上	64,269,793	65,510,921	66,810,025	68,064,159	↑ ↑ ↑
		48.82%	48.38%	47.71%	46.85%	
		51.18%	51.62%	52.29%	53.15%	

小選挙区分300人の議員の過半数は人口500万人以上の都道府県の代表

これが議会なら投票力指数: 都市vs地方 = **1vs0**

歪んだ「1+」政策の地方貢献効果は絶大

		Opt	P	LRM	GD	AMD	GMD	HMD	SD	1+Opt	1+P	1+LRM	1+GD	1+AMD	1+GMD	1+HMD	1+SD
地方 v.s. 都市の配分議席数	地方	146	148	140	132	141	141	142	150	153	164	157	150	158	159	160	166
	都市	154	152	160	168	159	159	158	150	147	136	143	150	142	141	140	134

- 制度はシンプルの方がよい。一つの提案としては...

何でも良いが一つの制度で一票の格差最小を目指す

衆議院
[適当数の議席]

小選挙区制とか...
一票の格差最小に

参議院
[141 議席]

各都道府県から3人など...

都道府県(地方・都市)を対等に扱い、チェック機関として機能させる